



■特集

島田病院は リハビリテーション機能の充実した 「整形外科専門施設」です。

平成19年度 島田病院手術実績の報告
平成20年7月1日よりDPC導入

インタビュー

トレーナーのお仕事

「メディカルフィットネスクラブでは、
その方にあったトレーニングメニューを
作成します。」



まめ知識

脳卒中からの復帰



トピックス

SCD友の会総会に参加

新人医師紹介

看護の日

“Cafe” Infection Control



島田病院、八尾はあとふる病院は
「病院機能評価認定病院」です。

患者さまと医療者が一体となって取り組む 「島田病院の整形外科診療」を目指して。



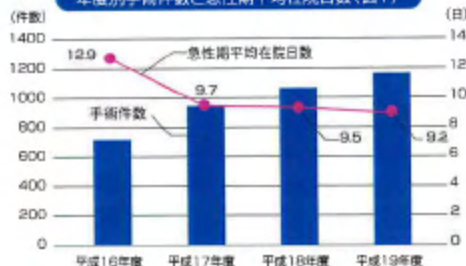
富田医師による膝前十字靱帯再建手術

順調に増える島田病院手術件数のうち 内視鏡手術が約半数を占めるようになりました

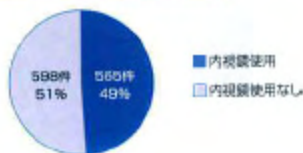
平成16年度から入院手術件数は増加し、平成19年度は1163件（前年比+87件）となりました。（図1）これまで手術件数は年々増加しており、中でも内視鏡手術の割合は、手術全体の49%を占めるようになってきました。（図2）

従来の切開する手術に比べて内視鏡手術は低侵襲で患者さまへの身体的な負担が少ないため入院期間が短く済む手術です。入院期間の短縮は、仕事やスポーツ活動などの復帰を早め、なおかつ医療費が安く済み、患者さまの自己負担が減るメリットがあります。

年度別手術件数と急性期平均在院日数（図1）



平成19年度内視鏡使用手術割合（図2）

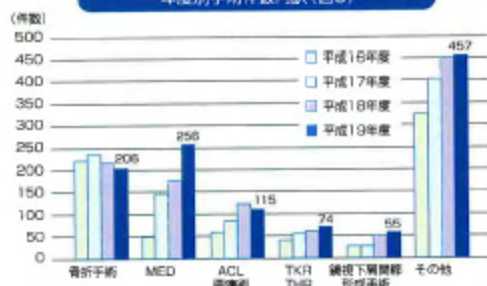


疾患別の入院手術件数

平成19年度の代表的な手術は、MED（内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア手術）、ACL再建術（膝前十字靱帯再建手術）、TKR（人工膝関節置換術）、THR（人工股関節置換術）、鏡視下肩関節形成手術があげられます（図3）。ACL再建術は前年比-10件と若干減少しましたが、MEDは+88件、TKR、THRは+14件、鏡視下肩関節形成手術は+5件とそれぞれ前年と比べ増加しました。特にMEDは遠方から来院される患者さまも多く、大幅に増加しました。

※他の手術の詳細に関しては、島田病院ホームページ
<http://heartful-health.or.jp>の手術実績をご覧ください。

年度別手術件数内訳（図3）



佐竹医師による人工膝関節置換術

患者満足度調査で良い評価をいただいています

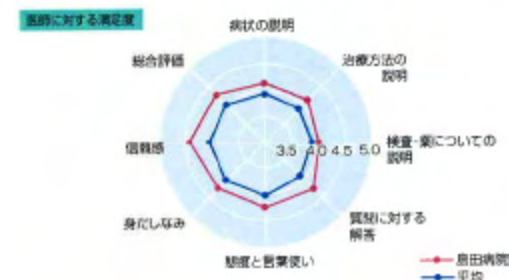
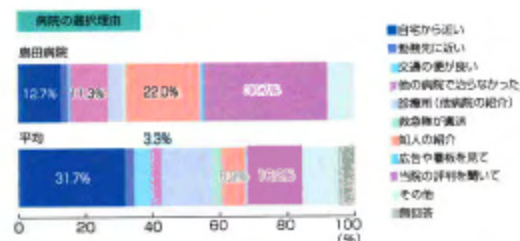
島田病院は43床の小規模な民間病院です。患者さまからの信頼がなくてはこれだけの手術を行うことはできません。

昨年11月に実施した大阪府私立病院協会の患者満足度調査(図4)では外来受診で当院を選択された理由は、①当院の評判を聞いて②知人の紹介③他の病院で治らなかったが、上位にあがり合わせると70%を占めました。

また、職員に関しては「病状や治療方法などの説明・質問に関する回答」「態度・言葉づかい・身だしなみ」「信頼感」「総合評価」の項目で平均より高い評価をいただきました。

医師・看護師・療法士などすべての職種で同様の結果であったことは誇りとして職員は受け止めています。しかし、期待される最大の評価とはまだまだ差異があることも自覚し、信頼を得るための努力を継続し続けます。年2回このような満足度調査を実施し、患者さまからの評価を大切な指標としています。

患者満足度調査 外来患者(図4)



DPC(診断群分類包括評価)を平成20年7月1日より導入

DPCとはDiagnosis Procedure Combinationの略で、入院患者さまの病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が1日当たりの全額を定額で評価する部分(投薬、注射、処置、入院料等)と従来の診療行為ごとに計算する出来高で評価する部分(手術、麻酔、リハビリ、指導料等)を組み合わせた新しい計算方式です。DPCは単に支払方式の改革だけではなく、データに基づく医療を追求し、透明化を図るものです。手術件数が増加していく中で、このような質も効率も及ぼすDPC導入に向け、2年間の準備期間を経て、認可を受けました。

リハビリテーション機能の充実した整形外科専門施設として

患者さまが手術を選択された時には、良くなったら「早くスポーツに復帰したい」「たまった仕事をさくさくやっつけたい」「孫と旅行に行きたい」とそれぞれの目的を叶えるために一大決心をされたことと思います。そのためにも、手術後のリハビリテーションは非常に重要です。島田病院では、担当のリハビリスタッフが、個別に作成したリハビリメモ(図5)をお渡ししています。リハビリメモは、訓練内容を書き込んだもので、いつでも自分で継続してリハビリができるよう、教育的な意味合いも込めています。

また、早期の社会復帰を果たすためには、治療をしながらでも健常部(ケガをしていない部位)へのアプローチを行うことで筋力低下を防ぐことも大切だと考えています。主治医の許可が必要ですが、島田病院の地下にあるヴィゴラス(メディカル・フィットネスクラブ)で、担当リハビリスタッフが作成したメニューを元に、マシンなどを使って、健常部のトレーニングをしながら治療を行うことも可能です。

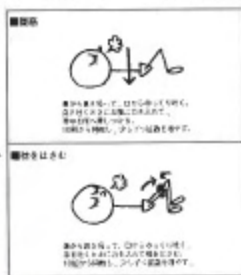


図5: リハビリメニューは島田病院ホームページでもダウンロードできます。

「自分で治す」という意志

患者さまには、疾患について、そしてこれからの治療方法について理解していただき、「自分で治す」という意志を持って治療方針を選択していただきたいと考えています。そのために、医療者は心に届く説明を心がけ、安全に配慮し、高い技術を磨き、最大限のサポートができるよう努めます。患者さまと医療者が一体となって取り組む「島田病院の整形外科診療」を目指しています。そのような診療のエッセンスを院長島田永和が本にしました。お読みいただきご意見をいただければ幸いです。

「身体は動かしてナンボや!」

痛い腰・ヒザ・肩は動いて治せ

島田病院 院長 島田永和著書の「痛い腰・ヒザ・肩は動いて治せ」が2008年6月13日に発刊されました。

多くの一流選手を支えるスポーツ医療のスペシャリストが、痛みの出にくい身体づくりの方法を教えます。



SCD 友の会 総会に参加しました。



毎年「SCD友の会」の総会には、当グループから理事長（SCD友の会顧問で会報「SCDニュース」に執筆しています。）をはじめリハビリスタッフや介護支援専門員などが参加しています。今年は、約30名のスタッフが参加しました。この会は、患者さまやご家族が中心となって運営されており、参加される方々にとって大切な情報交換の場となっています。

私たちは、個別相談と交流会に参加しました。「家族介護」「脊髄小脳変性症について」「リハビリテーションについて」などのブースに分かれ、各専門職が対応しました。リハビリのブースは私たちの担当で、療法士が個々に患者さまやご家族のお話を聴き、質問に答え、その場でできる動作や運動、生活につ

いてのアドバイスをさせていただきました。

患者さまやご家族から、生活に添ったお話を聴かせていただいたことは、むしろ私たちにとって貴重な経験で、専門職種として、リハビリテーションマインドを磨りませより高い技術を獲得しなければという思いを強くした1日でした。

島田病院 リハビリテーション課 金子育代

島田病院では、SCD教育入院を長年に渡って継続しています。SCD教育入院は、1週間の教育入院で、リハビリを学んでもらう事を目的とし、患者さまが、退院後も自主的に継続してリハビリを行えるようにリハビリメニューをお渡しします。このようなSCD教育入院を利用された方で、福島県に在住しておられる方からお手紙を頂きました。「独りで自主的にリハビリを継続していくのは難しいが、退院時にももらったリハビリメニューは全部やっています。」という事と感謝の気持ちを綴った内容でした。このようなお手紙をいただき、うれしい気持ちと共に、今後もより良いリハビリテーションを提供できるように努力していきたいと思います。

※SCD: Spino cerebellar degeneration (脊髄小脳変性症)
運動失調を主要な症状とする神経変性疾患の総称。現在、完治する治療法は見つかっておらず、特定疾患として認定されている。

新人医師をご紹介します。



近藤 幹大 (こんどう みきひろ)

- ①出身大学:平成18年 三重大学医学部卒
- ②趣味:Running
- ③ひとこと

南校舎中で医療に取り組んでいるような状態になりたい。これがレジデントを修了したときに到達していたい状態です。自分自身、努力している感じがなく自然と無我夢中である。これが当たり前の状態になりたい。そのために一人一人の患者さんを大切に、一日一日向上している感覚を味わえるように頑張りますので皆さんよろしくお願いたします。



松田 淑伸 (まつだ よしのぶ)

- ①出身大学:平成18年 香川大学医学部卒
- ②趣味:スキー、インラインスケート
- ③ひとこと

親切丁寧な診療を心掛けています。本年4月より、能力ながら診療に当たらせていただいております。出身地は奈良県の大和高田市です。スポーツは、小学校は野球、中学は陸上、大学から現在ではスキーとインラインスケートをしています。新米ですので皆さんにはご迷惑をお掛けしておりますが、これからも宜しくお願い致します。



横 孝俊 (よこ たかし)

- ①出身大学:平成18年 近畿大学医学部卒
- ②趣味:ゴルフ
- ③ひとこと

スポーツ型には様々な方が来院されます。運動中に受傷して来院する方が多いのはもちろん、一流のスポーツ選手も来院されますし、あちこち働かしながら、それでも生涯スポーツといった方など、毎日が楽しく、貴重な経験であると感じ、励んでいます。

看護の日

毎年恒例となりました看護の日のイベントを5月10日(土)に開催しました。今年は残念ながら朝から雨や風が強く、肌寒い1日となり、お天気には恵まれませんでした、多くの方々にご参加いただきました。

当日は、身長や体重の計測、体脂肪や腹囲、血圧測定、検尿などの検査、ゲームやメッセージカード作り、ヴィグラスでの体力測定、手洗い方法のDVDを放映したり、シブの効率的な張り方の展示などたくさんのイベントを行いました。これらのイベントは、親子で参加されている方や友達同士で参加されている方などにぎわいました。



また、翌日は母の日という事もあり、カーネーションのプレゼントには多くの方が訪れました。イベントの中でも、骨量測定と血管美人テストは特に人気を集まりました。骨量測定は先着10名限定だったこともあり、イベント開始後あっという間に10名が決まってしまうました。また、血管美人テストはその結果に一喜一憂され、「血管美男だ」と嬉しそうに報告してくださる方もいらっしゃいました。

はあとふるグループでは、「看護の日」を地域の方々とふれあう機会として、来年も多くの方に楽しく健康について考えていただける機会になるよう企画していきたいと考えています。



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人事務局 感染・安全管理担当

感染管理認定看護師 森下 幸子

この季節、食品の管理は重要です!食中毒について・・・

食中毒の季節になりご家庭では食品管理について、敏感になられているのではないのでしょうか?今回は、食中毒の情報を提供いたします。

まず、国内でどれくらい食中毒は発生しているのでしょうか?平成18年では年間1,491件、患者数39,026人、死者数6人という報告があります。ただの「食あたり」ではすまされない数字です。そこで、WHO(世界保健機構)が発表し25カ国以上に紹介されている「食品を安全にする5つのKey(鍵)」をご紹介します。(※は、私からの重要ポイントです)

①清潔に保つ

正しい手洗い、まな板・包丁など調理器具の洗浄・消毒、防虫・防ソ(ネズミ駆除)で、細菌やウイルスなど微生物を食品に「つけない」

※子供さんのオムツ交換やトイレへ連れて行った後は、しっかり石鹸と流水で手を洗ってから食品に触れてください。

②生の食品と加熱済み食品と分ける

異なる食材を分けて取り扱う。まな板・包丁は加熱済み食品用など用途別の区別を!

※お買い物で食品を袋に入れる場合、肉や鮮魚などと、パンや野菜、果物などは袋や場所を分けて入れてください。

③よく加熱する

加熱が必要な食品はよく加熱しましょう。調理済み食品も再加熱を!!

④安全な温度に保つ

調理済み食品を室温に2時間以上放置しない。湯かいものはあたたかい状態で。冷たいものは冷たい状態(冷却)で保管。

⑤安全な水と安全な材料を使用する

野菜や果物など生で食べる食材をよく洗ひましょう。消費期限をすぎたものは食べないようにしましょう

この5つを、キッチンに貼っていただきご家族みんなで、食中毒予防に努めてください。

『メディカルフィットネスクラブでは、 その方にあったトレーニングメニューを作成します。』

はびきの ヴィゴラス トレーナー 西村貴宏さん



はびきのヴィゴラスは、開設から平成20年8月1日で5周年を迎えました。今回は、ヴィゴラス開設と同じく、入社して5年目になるトレーナー（健康運動指導士）をご紹介します。ヴィゴラスはトレーナーや理学療法士が常駐し、個々にあった目標を設定できるメディカル・フィットネスクラブ（疾病予防施設）です。

個人メニューでトレーニングできるのがヴィゴラスです。

僕は、元々身体を動かすことが大好きで、ヴィゴラスに入職する前は、民間のフィットネスクラブでトレーナーをしていました。フィットネスクラブでは施設を自由に利用できますが、ヴィゴラスでは、利用者さんに担当のトレーナーがつき、個別プログラムを作成してからトレーニングを行うのが特徴です。個人メニューは、入会時に担当のトレーナーが、ご利用者へ問診や体力測定などの評価を行ってからご利用者の目標（〇kg痩せたい、山登りできる体力が欲しいなど）と現状を比較し、目標をたててからトレーニングを開始します。担当のトレーナーが、個人の体力や目的にあったプログラムを作成していますので、安全で効果的なトレーニングができます。

トレーニング開始後は一ヶ月毎にトレーニング内容の確認などを行います。4ヶ月目には、トレーニング成果を確認し、トレーニングや目標設定の再調整を行います。このようなサイクルでトレーニングを行うので、トレーニング成果を実感し、さらに目標をより高く変化させながら取り組む事ができます。僕が担当しているご利用者は、11歳から85歳の高齢者まで幅広く、目的も競技力の向上や健康維持など様々です。個々の目的にあわせた個別メニューでトレーニングできるのがヴィゴラスの魅力だと思います。

パーソナルトレーニング

より専門的なトレーニングを目的とする方や「せっかくトレーニングするのだから、正しい方法でトレーニングがしたい」「ひとりで続けようか不安だけど、トレーナーがついてくれていると安心」という方にはパーソナルトレーニングがあります。これはトレーナーと完全マンツーマンの50分のトレーニングですので、



パーソナルトレーニングでの個別指導

さらなるトレーニング効果も期待できますし、競技力の向上等を目的としたより専門的な技術の習得も可能です。

島田病院との連携で独自のリハビリテーションを提供

島田病院の治療終了後で、医学的な対応が必要な患者さまには、理学療法士が対応し、スポーツや社会復帰のサポートをしています。また、ご利用者で身体に異常がある場合には、整形外科の受診へ誘導して、医師とトレーナーの連携を行った後、島田病院で手術などを受けた患者さまには、安静期間が長引くことでおこる筋力低下を予防するために健常部（ケガをしていない部位）トレーニングも行っています。このように医師、リハビリスタッフ、トレーナーと連携することで、島田病院独自のリハビリテーションが可能となり、スムーズな復帰を支援しています。特に島田病院で行うMED（内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術）後には、理学療法士とトレーナーで術後から復帰に至るまでの一連の流れを計画書として作成しており、これを基に患者さまが復帰までの課程を学びやすく、早期の復帰と再発予防に取り組んでいます。

ヴィゴラスでは、単に筋力アップするだけでなく、運動に対する知識を身につけてもらうこと、ご利用者が受け身でなく、能動的に取り組んでいただくことが大切だと考えています。トレーナーとして、多くの方が、運動に対する正しい知識を身につけ、その人にあった運動が提供できるように取り組んでいきたいと思っています。

脳卒中からの復帰

地域の病院のつながりが第一歩

■八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 部長 小野 仁之

脳卒中は「脳血管障害」つまり頭の中の血管が切れたり詰まったりすることによって突然起こる病気です。かつて日本人の死亡原因の第一位だったこの病気は、医学の進歩もあって、もはやめったに「死なない病」になりました。しかしその一方、脳という身体の中核にダメージを残すため、高齢者の方々が「寝たきり」になる第一の原因となっています。そのため今や国をあげてこの病気の予防と治療、そしてリハビリテーションと介護の体制づくりが急がれているのです。

その体制の中で鍵となるのは、多くの専門職種の「協力」そして病院どうしの「つながり」さらに介護や福祉機関との「連携」です。ここではとくに病院どうしの「つながり」に焦点を絞ってお話ししましょう。



カンファレンス：多職種が集まって患者さまの情報を共有し、方向性を決定します。

脳卒中は血管の病気です。発症時には一刻も早く高度な設備を備えた病院に入院して、脳外科や神経内科の迅速な診断と進んだ治療を受けることが大切です。多くの場合、このような急性期治療は1～2週間程度で一段落します。軽い症状の方は自宅に退院できますが、後遺症の重い方は回復期のリハビリテーションを担う病院に移って機能回復訓練を受けることになります。目標はもちろん歩いたり、食事・排泄などの生活行動の自立を達成して自宅に帰ることです。しかし、それがままならない場合はさらに「維持期」の施設に移って介護を受けながら生活リハビリを続けることとなります。

このように「病院を移っていく」ということは患者さまやご家族にとっては不安や負担を感じられることでもある

でしょう。それを少しでも減らすためには、急性期の治療をする病院と回復期のリハビリテーション病院、維持期の療養型病院や介護老人保健施設が日頃から互いに連絡を取り合って、一人の患者さまに対して継続したサービスを提供する工夫が必要です。今年度から行政の指導もあって、従来の医師紹介状や看護情報提供書に加え「地域連携パス」という文書を一部の患者さまにお渡しする試みが始まっています。これは病院を移られる患者さまにとっての通行手形あるいは道案内書のようなものです。急性期の病院で、この「地域連携パス」を使って、次の回復期病院での治療やリハビリテーションの内容をある程度説明します。その流れに沿って治療やリハビリテーションや介護サービスの切れ目を作らないようにするためのものです。

この流れを保つために、病院間で定期的に「地域連携パス会議」を開いて様々な情報を交換します。このような試みを続けていくことによって、病院を移った患者さまも地域の中で一つの医療機関でサービスを受けているような安心感を持ってリハビリテーションに専念していただけることがわれわれの願いです。

八尾はあとふる病院は中河内圏域の地域リハビリテーション支援センターとして、地域の主要な病院間の地域連携パス会議を主催しています。そして今後は維持期の療養施設や脳卒中の予防事業に携わる方々との連携も深めていく予定です。

profile

小野 仁之 (おの のひとし)

八尾はあとふる病院
リハビリテーション科医師

専門 リハビリテーションと地域医療

趣味 ジョギング、読書(最近は表紙物など)

ひとこと

障害を克服するのはほんとうに大変なことではあ
りませんが、周りに集ったときには周りの患者さんや
いろんな人からヒントをもらうことが大切です。

はあと ハート インフォメーション

はあとふるグループのコア概念

使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく 地域の方々に
提供し続けます

理念

私たちは、その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
心 (Heart) と技術 (Hands) で
支援します

基本方針 4つの追求

1. 「確かな技術」を追求します
2. 「心に届く」を追求します
3. 「安全」を追求します
4. 「信頼でつながるチーム」を追求します

島田病院の外来が変わりました

「だれでも、どこでも」診療を受けることができる日本の医療制度は、欧米と比較しても大変すぐれた制度です。しかし、その反面、外来に多くの患者さまが来られ、待ち時間が発生してしまいます。「手術後や病状が不安定な方を優先して診療したい」「なんとか待ち時間を短縮したい」と私たちは考えました。そして平成20年7月1日より外来診療体制を変更しました。

- 診療をこれまでの3名体制から4名体制に増員
- 午前外来受付時間を8:30～11:00(従来より30分短縮)に変更
- お薬のみの診療を廃止
- 診療予約をお取りいただくのに条件を設けます。(詳細は以下)

【初診予約体制変更内容】

- 紹介状(診療情報提供書)を持参される方が初診予約可能となります。

※紹介状がない場合は、受付時間内に来院していただき、来られた順番での診療となります。

【再診予約体制変更内容】

従来の患者さまのご希望で予約をお取りする体制を改め、担当医の判断により、再診が必要なお方のみご予約をお取りするよう変更させていただきます。

再診予約の具体例

- 手術後の方
- 近い将来、手術をお受けになる可能性の高い方
- 症状の不安定な方

※お薬や定期的な注射のみをご希望の方には、近隣の診療所をご紹介いたしますのでお申し付け下さい。

初診予約・再診予約変更受付電話番号

072-953-4891

受付時間:月～土 9:00～17:00(日、祝は除く)

今後より一層、病院と診療所間の連携を強化し、当院の特性を生かした医療をご提供できるよう努力してまいります。

これまでよりご不便をおかけすることもあります、ご理解をいただきますようお願いいたします。

Check!

QRコードで簡単アクセス

島田病院の情報が携帯電話から簡単にアクセスできます。



はあとふるグループ

- | | |
|---|---|
| ●医療法人(財団) 永成会
島田病院
Eudynomics はぎきのヴィオラス
介護老人保健施設 悠々亭
在宅介護支援センター 悠々亭
介護サービスセンター 悠々亭
〒583-0875 大阪府羽曳野市鶴山100-1 | ☎072-953-1001
☎072-953-1007
☎072-953-1002
☎072-953-1003
☎072-953-5514 |
| ヘルパーステーション 悠々亭
訪問看護ステーション ハートパークはぎきの
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-95-7 | ☎072-953-1062
☎072-953-1004 |
| 八尾はあとふる病院
〒581-0818 大阪府八尾市東園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる
〒583-0815 大阪府八尾市富町2-10-22 | ☎072-999-0725
☎072-999-8126 |
| ●社会福祉法人 はあとふる
高齢者生活福祉センター かつやハウス
〒583-0875 大阪府羽曳野市鶴山96-10 | ☎072-931-1616 |